



上富良野町

地球環境問題と北海道の果たす役割

北海道は豊かな自然と美しい景観を有していますが、積雪寒冷、広域分散型社会という北海道特有の地域条件からエネルギー消費量が多く、また畜産廃棄物から発生する温室効果ガス等の排出削減など、地球環境問題にも直面しています。

このシリーズでは、北海道洞爺湖サミットの開催を契機として、我が国の環境問題をリードする北海道のさまざまな取組みを紹介します。

新たな時代の北海道開発

2005年7月22日、全国計画と広域地方計画からなる国土形成計画法が成立した。全国計画は2006年11月に、計画部会中間とりまとめが、国土審議会へ報告され、現在閣議決定を待っている。一方、広域地方計画は2006年7月に広域地方計画区域が定められ、全国計画決定から1年以内に広域地方計画を策定することが予定されている。このような中で、国土交通省北海道局は、広域地方計画のひとつともいえるべき「新たな北海道総合開発計画」を策定しようとしている。

今日の北海道開発は、グローバル化の進展、自然環境・エネルギー問題、人口減少・少子高齢化といった我が国を取り巻く環境の変化に対応し、北海道の優れた資源・特性を活かしながら、我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、活力ある地域経済社会の形成を図ることが重要である。

自然環境・エネルギー問題に着目すると、現在、地球環境への人間の活動の影響が随所で顕在化しつつあり、地球温暖化が問題となっている。人類は、環境と共存しながら、経済発展、地域の活性化、人々の安心で安全な暮らしなどのさまざまな可能性を見いだす持続可能な社会のあり方を模索していく必要がある。

北海道は、ヨーロッパ諸国と同程度の人口密度であり、ゆとりある空間を持っている。また、我が国の4分の1近くを占める森林同じく8割以上を占める湿地、良質で豊富な水など、21世紀に最も重要な要素となる自然環境も十分に保持している。さらに、新しい

ことに進んで挑戦する人々の文化を活かし、新たな時代

持続的発展が可能な地球社会を切り開く先駆者として、北海道に大きな可能性を見ている国民の期待に応え、困難な問題解決のためのさまざまな先駆的・実験的取組みを実施していくことにより、世界に開かれた地域として飛躍していく好機が訪れている。

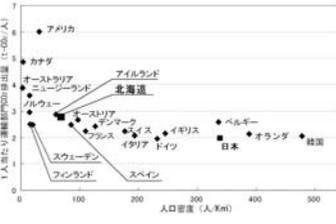
サステイナブル・ディベロップメント

20世紀はあらゆることが激変した時代であり、世界人口は16億人から60億人と4倍、GDPは17倍、1人当たり所得は4倍強になった。このためエネルギー消費は11倍、水の消費も10倍となっている。世界の人口が100億人規模になると予想されている中、世界中の人々がこれまでと同じ豊かさを求めるなら、化石燃料のみならず、水や食料までも不足することが懸念される。

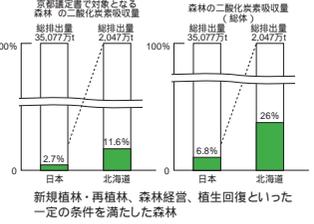
人類誕生以降の歴史を人口推移からみると過去3000年間は特異な時代であった。今一度、これまでの生活を振り返り、次世紀へとつながる社会を構築することが求められている。知識社会やゆとり社会をビジネスとして成長する先進国と、市場原理に基づいた高度成長を旨とするBRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国の4カ国)や発展途上国その双方が豊かな社会を実現できるようにするために、先進国においてこれまで以上に環境負荷の小さい社会(エネルギー消費、産業活動、生活行動)を構築する技術・知恵・ライフスタイルを実現化し、これらを発展途上国へ還元することが求められる。

先進国のひとつである日本、GDP世界第

主要国の人口密度と1人当たり運輸部門CO2排出量



森林の二酸化炭素吸収量(単位:炭素トン)

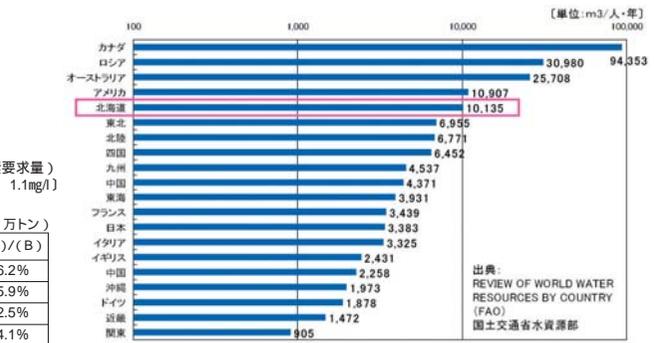


白樺街道と十勝岳(美瑛町)

北海道は、豊かな自然と美しい景観を有しており、これを国民全体の資産として守り育て、次世代に継承していく必要がある。一方北海道は、同様の気象条件を有する欧米諸国と同程度の二酸化炭素排出量となっているが、冬期暖房の効率性向上などさらなる改善の余地がある。このため、持続可能な地域社会の「北海道モデル」の実現に向け、北海道局が掲げる「北海道環境イニシアティブ」を道民挙

げて展開していく必要がある。その具体は、雄大な自然の恵みを体験する世界に開かれた「美しい北海道づくり」と低炭素社会の実現に向けた「北の暮らしのイノベーション」を一層推進するため、多様な主体の連携・協働により、我が国の環境政策の先駆的取組みとして、モデルとなる施策を支援・展開することになる。その施策としては、自然の恵み豊かな美しい大地の再生・創造、一酸化炭素吸収源としての森づくり、環境付加の少ない地域交通システム、地球的視点で見る北の暮らしのイノベーション、バイオマスなどの未利用・循環資源の活用などが北海道環境イニシアティブの中に示されている。

Table with 2 columns: Rank and Name. Lists top 10 BOD (Biochemical Oxygen Demand) in rivers across Japan. Hokkaido's rivers are ranked 1st and 10th.



主要国の人口1人当たり水貯存量の国際比較

Table showing biomass test results for Hokkaido. Columns include Biomass Type, Hokkaido (A), National (B), and Ratio (A)/(B). Categories include Wood-based, Non-wood-based, and Livestock manure.

北海道のバイオマス賦存量